

令和8年度 第1回鎌倉市子ども読書活動推進計画に関する連絡会議 会議録

日時:令和8年(2026年)7月30日(木) 15時~16時35分

場所:中央図書館 多目的室

傍聴者:0人

次第にそって進行

1 自己紹介

(委員) ピヨピヨ保育園の園長、前回もこのお役目をいただいていた、長く務めさせていただいている。ピヨピヨ保育園の園長も丸8年、今年9年目になった。子どもと一緒に過ごさせて楽しいが、実際は事務仕事も多い。保育会からの推薦できているが、通常は委員の負担を考え交代になるが、保育会の会長にお願いして、引き続きこの会に出させてもらった。もともとは設計事務所をやっていたので、今度のゾーニングの研修、楽しみにしている。

(委員) 長谷幼稚園の副園長で、光則寺の住職でもある。私の生活では、本に関する催しを2つほど行っている。幼稚園では、月に1回絵本を持ち寄って楽しさを語る「絵本の会」を開催している。光則寺は日蓮宗なので、光則寺では法華経にかかわる文学、「宮沢賢治読書会」を行っている。読書会はおもしろく、一人で読んでいるのと内容としてはかわらないが、読書の楽しさがまるで違う。読書会をすることで、本や読書、人と人をつなぐのと、作品の魅力を深めるという部分がある。この連絡会議は、一人では気づかなかったよい意見が生まれるような会議になるといい、と思う。

(委員) 第一小学校3年生の担任。文字を読むことがかったらと思う子がたくさんいる。読み聞かせはとても好きで、学校図書館専門員におすすめの本を聞きに行って読み聞かせをすることもある。読んであげると、子どもたちからいろいろな考えがでてくるので、そういう経験を通して文字に慣れてもらいたいと思っている。朝読書の時間が週に2日間、10分間あり、静かに読む習慣は身についている。味見読書など、もっと好きになってもらうように、工夫してできることを学んでいけたらと思っている。

(委員) 第二中学校、国語科担当。こどもたちの読書率をどうやったらあげていけるかということを、図書委員の活動を通して一緒に考えている。第二中の図書館内にもバリアフリー、LGBTなど声には出しにくいけど、理解してほしい本のコーナーを作ったが、あまり動きがなかった。そのため、読書活動推進員が図書委員に相談したところ「図書委員が名前をつけたい」という意

見がでて、「こころのおふとん」コーナーとなった。ディスレクシアについての本を借りている子がいいて、レポートか何かで書くのかと思って声をかけたら、「お友達に勉強が苦手な子がいるので、これを読んだら、自分がどのように接すればいいのかわかるかも」と手に取ったとのことだった。その話を聞いて、大人が場所をデザインして必要なものを配置しておけば、子どもたちは自分で知識を得ていくということを実感した。

（委員） 玉縄図書館で、職員とのやり取りで本を大事にしている、というのが感じられた。図書館では読書バリアフリーに力を入れていると伺ったが、最近まで重症心身障害児者施設に勤めていた。療育活動で様々なイベントが行われているが、図書館の訪問サービスでおはなし会をしてくれたが、いい意味で静かなイベントだった。例えば、演奏会のイベントでは、好きな曲が演奏された場合でも、日によって、快・不快の感じ方に違いがみられる利用者様もいらっしゃったが、図書館のおはなし会では不快感を示されず、自然と思える感じだった。そのことが強く心に残っている。利用者様は寝たきりの方も多く、まわりの方の支援力によって、選択肢が広くなったり狭くなったりしている。支援する側として、自分たちの支援力をどう鍛えるのか、学んでいけたらと思う。

（委員） 幼稚園から高校生まで鎌倉市で育った。玉縄小学校で5年生の時に、朝読書があり、読書の楽しさに出合った。そこから紙の本を広めたいと思って、出版関係に勤めていた。東京に住んでいたが、結婚出産を機に鎌倉に引っ越してきた。現在携わっているのは、多国籍の人材支援。子どもが小学校2年生と保育園年中の2人だが、共働きで忙しく、時間の確保ができず、なかなか読み聞かせができない。周りをみても、読書離れ、絵本離れも進行しているのではないかと痛感している。3年前におはなしボランティア養成講座を受講、3か月に一回程度おはなし会に参加している。絵本を読み聞かせるとこどもたちが純粋に受け取ってくれるのがよくわかる。電子デバイスが優位で、絵本が下位というわけではなくて、どちらも並列だな、と思っている。こどもたちの読書環境整備のために、こういったことができるのか、この会議の委員の活動をとおして、試行錯誤していきたい。

（代理） 仕事内容としては、学校図書館専門員・読書活動推進員などの学校司書や図書館部会にかかわっている。個人的にはピョピョ保育園の出身者。幼児教育が好きだったので、幼稚園保育園の勉強などもしていた。こどもたちへの読み聞かせも興味がある。絵本はこどもたち純粋にきいてくれる。年を経ても、同じような反応がかえってくる。絵本は言葉がない分、みんな向かっていく方向、成長していく方向は一緒なのではないかと思う。いろいろな立場の人が集まる場所に出席させていただいて、学んでいきたいと思う。

（委員） 前期から引き続き参加。4月の機構改革でこどもみらい部が教育委員会の所属となり、課の名称もこどもみらい課に変更になった。こどもみらい部では、こども計画に基づき、こど

もや若者が自分らしく健やかに学び育つことができるよう切れ目のない支援に取り組んでいる。読書や本に触れることは、ひとつの貴重な体験の機会であり、自分らしく健やかに成長するためにとても大切なものだと思っている。

（委員） 4月に着任。青少年課で、学童から二十歳の集いまで（6歳から 20 歳まで）が担当となる。学童の中にも図書室を設けており、放課後の時間に、学校の図書館や市の図書館では読めないような本を読んでいる姿を見ることがある。今年度から、西鎌倉小学校の図書館を学童の時間で使うという仕組みを取り入れ始めた。ルールはこどもたち自身が考えた。3年生を中心に、下級生を引率し、3年生が1年生に読み聞かせを行っていた。夏休み、学校図書館に行ってお本を読みたい。という希望があり、実現に向けて動いてきた。一体感を作っていければと思っている。

（代理） 各園をまわって、こどもたちと絵本との距離が近いと感じた。部屋の隅っこに絵本が並べられるなど、図書スペースが設けられていて、園の生活のなかで、絵本を読んでいる時間があったり、お迎えの時に子どもたちよりも大人が夢中になって読んでしまい、なかなか帰宅できないという話があったりも聞いた。

（委員） こども家庭相談課では、児童虐待の相談を受ける相談室と、助産師・保健師などによる母子保健事業のチームがある。こどもたちが鎌倉で育ってよかったと思い、保護者が鎌倉で子育てできてよかったと思ってもらえるよう取組を進めている。

今後に向けて、本を活用して性教育をしっかりと伝えていきたいと考えており、性教育の話とはいえ、本質は命の話であり、相手を尊重する、自分を大事にするというもので、自殺対策、虐待予防としての取組である。「伝える」から「伝わる」になるように図書館と一緒にできることを考えていきたい。

（委員） 発達支援室では、未就学児対象として発達の相談を行っている。保育園、幼稚園と連携して、特性のある子をどうやって育てていくか考えていく場所。児童発達支援センターあおぞら園（指定管理）も管轄している。こどもの読書とかかわりが少ないところだが、様々な特性の子がいて、活字の大きさ、配列、といった部分へのとっつきにくさ、そういうバリアについて広く知り、工夫することで、今後の支援につなげていけたらと思っている。

2 会長と副会長の選出

会長に横山委員、副会長に熊倉委員を選出。

3 鎌倉市子ども読書活動推進計画について

(事務局から説明:資料3, 4, 5参照)

(委員) 読書バリアフリーパックはどのようなものか。

(事務局) わかりやすい言葉や、ピクトグラムを使って説明されているLLブック、大きな文字の本、点字付きの絵本、一行ずつ読みやすくなるリーディングトラッカー、読書バリアフリーについて説明されている『学校の「読書バリアフリー」ははじめの一步』などを入れている。各図書館に増えてきた「りんごの棚」にあるような本をパックにしている。学校への巡回を行うことで、まずは学校の教員等にバリアフリー図書について知ってもらい、こどもたちがいつでも手にとれるように学校図書館にそろえてもらえたらと考えている。

(委員) 5点の重点項目について、もうすでに行ったものや、行う目途のついているものもあるのとのだが、具体的にどんなことをしたのか。

(事務局) 2(1)3「『バリアフリー図書パック』を作成し、学校等へ貸出する。」では、さきほどのバリアフリー図書パックについて、6月の校長会で説明し、2学期から学校通送便で巡回する予定。

2(1)6「入院中のこどもたちを含む医療ケア児等へのサービスの研究」については、小さき花の園へは継続的にはなし会などの訪問サービスを実施したり、11月に小さき花の園に入院中で、鎌倉支援学校分校の生徒さんが腰越図書館に職場体験に来る予定。さきほど自己紹介で委員が重症心身障害児者施設に勤務経験があるとのことなので、情報共有させていただき、サービスについての研究ができればと思う。

3(3)3「メディアリテラシー研修など、情報活用学習のための研修を実施する」は6月に学校司書や教員と合同で研修を行った。ウィキペディアの出典を作成するというメディアリテラシー研修を行った。

4(3)7「地域の宝物を生かし、鎌倉を楽しむ取組を実施。地元著者・出版社・書店との連携もすすめる。」も6月に鎌倉ゆかりの絵本作家、柿本幸造氏に関する講演会を本の海サポーターズ交流会で行った。

5(1)1 ゾーニング(図書館内の動線の分けなどレイアウトの工夫)については、この後詳しく説明するが、8月に実施予定。

4 第5次鎌倉市子ども読書活動推進計画の進捗について(事務局からパワーポイントで説明)

5 図書館のゾーニング（資料6参照）

（事務局）参加希望者の方は教えてください。

参加：4名

（委員）こどもたちの声を聞くということも大切なことだと思うが、その点についてはどのように考えるか。

（事務局）先ほど紹介したなかで、「としょかんいんになってみよう」という行事があったが、そこで「としょかんかいぎ」を行った。こどもたちが図書館にどうあってほしい、とか、こういう場所がほしいとか、そういった意見を直接聞ける貴重な機会なので、聞くようにしている。

（委員）図書委員の中でもよく話題がでる。利用者を増やすことと本を楽しむことはイコールではない。あまり本を読まない人との、共存をどうしていくかという話題もよくでる。机やいすの配置、机の向き。スペース分けをするようにして、静かに本を読みたい人と、交流をしたい人の場所を区切ってみるなど、様々検討している。ただ、図書館だけは異年齢で「好き」を通してつながれる場・交流の場と考えることもできる。曜日を分けるなどの案もでる。さきほどのゾーニングの話は、図書委員と考えるのもおもしろいかもと思った。生徒も大人と話すのが楽しいので、市図書館×図書委員で場を設け、こどもの意見を聞く機会としてもいい。

（委員）玉縄でやっているこわいおはなし会に参加したことがあるが、親として、リラックスして子どもと行ける機会だと思った。また、ゾーニングのひとつのやり方として、時間をずらす。という可能性があるのだなと思った。

（委員）にぎやかな図書館のキーワードを実施しよう。音をだしてもよいという図書館の中で、静かな環境で読める場所を作れればと思う。

（委員）昨年度の連絡会議で、学校図書館について意見交換を行った。中学校の司書の勤務日数が6日間から10日間に増えたのはとても大きなこと。図書館からはたらきかけたのか。また、西鎌倉小学校の学童での学校図書館利用についても、まさにこの連絡会議で話していたことが実現したもので、とてもよい試みだと思う。

（事務局）学校司書の日数増加は学校教育課が行った。

（代理）読書活動推進員自身からの日数を増やしてほしい、という希望が多かった。ただ、少し勤務形態が変わってしまうので、そのあたりをどのようにこどもたちのために利用していくようにするかが検討事項となる。面談期間中に学校図書館を開館させ、生徒たちの居場所を作っ

てくれた学校があったり、さわってわかるバリアフリー図書なども学校図書館に増えたりしている。小学校は学校司書が身近だが、中学校は学校司書の存在が遠いので、そのあたりも工夫が必要。

（委員） 図書館を利用してほしいが、何のために利用者を増やすのか。どういうときに本を借りるか考えると、発表しないといけないときに、足りない部分があるから調べる、という使い方が多い。この会議に参加するにあたって、どんな大人になってほしいのか。何のために読んでほしいのか、ということを考えないといけないと思った。

（事務局） 必ずしも、こうなってほしいから、というのがあるわけではない。読んだときに楽しいとか、何かひらめきを感じたり、いろんな読み方があっていい。

（委員） 本を読むことで、世界を広げる、世界を深める。豊かな世界があるので。その入口になる、というのが一番大きいと思う。

（委員） 今のことで思い返したが、私にとっては本を読むことは自分との対話であり、コミュニケーションツールの一つだと思っている。担任の先生と話したくて、たくさん読んだ。そのことは自身の発達にとって、必要だったと思っている。4歳ぐらいになると、こどもたちが絵本をとってお互いに紹介しあうなどの風景もみえ、原点が垣間見える。

（委員） 委員の話で性教育と図書について触れられていた。本があることがメッセージになるので性教育と図書についても大切だと思った。

（事務局） 中央図書館では「からだといのちの図書コーナー」があり、性教育というより、からだの発達という、おおきなテーマとして所蔵している。からだのことを知りたい、こころのことを知りたいと思ったときに見る本を収集して、見たくなった子が見てくれたらいいなと思っている。

（委員） 性教育などこどもたちにとって大切なテーマは変な情報ではなくて、しっかりした情報を伝えていきたい。

幼稚園協会の広報紙担当になったが、今回から絵本の紹介コーナーを作成し、林明子さんを紹介した。出来上がったらずいご覧いただきたい。

次回の日程等確認

11月頃、書面会議を行う。（中央図書館のトイレ工事の関係もあり）

1月か3月に連絡会議を行いたい。また近くなったら、調整する。